

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0190502336, 医療法人社団NYC, グループホームせせらぎ平岸, 札幌市豊平区平岸8条13丁目1-53, 令和3年2月17日, 令和3年4月16日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔や思いやりを忘れず、利用者様の尊厳を大切にしながら個々の生活のベースに合わせたケアを目指し、利用者様一人一人が自分らしく生活できる喜びを実感できるよう支援に努めています。また、職員の年齢層も幅広く協力体制が取れるように連携し、活気のある職場である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和3年3月27日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームせせらぎ平岸は、最寄りの地下鉄駅から徒歩圏内で、商業店舗が建ち並ぶ羊ヶ丘通やアンパン道路に近い住宅街の一角に在る2ユニットの事業所である。平成16年の設立時に根幹として継承され、職員は確実に浸透させる事に日々努力し、実践する環境づくりに努めている。特に、介護計画作成の過程では、何気ない日常の会話の一言も拾い上げ、具体的な情報として記録し、アセスメント、モニタリングを詳細に行い、その人らしい生活の維持、継続に生かしている。入院中であるが、終末期を事業所で迎えたいとの本人、家族の強い要望を受け、退院後の対応を全職員で検討するなど、終の棲家として安心、安楽を基本にした看取り介護に取り組んでいる。例年であれば、近隣に所在する系列のグループホームや看護小規模ホームと合同で開催する、「せせらぎ夏祭り」には利用者を始め、地域住民や家族も参加し賑わいを見せているが、今年度はコロナ感染症対策で全ての行事が中止となっている。事業所では不要不急の外出を控えており、職員はこの「お家時間」を室内レクに活用し、毎日の体操を始め、季節の飾りつけを皆で作りに上げるなど、持てる力を発揮し、楽しくメリハリのある時間を共有している。単独行動を好む利用者は、居室にて好きな野球や相撲を気兼ねなく観戦するなど、其々の生活スタイルを把握し、理念の如く、自分らしい生き方を支援している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff actions.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を持ち、家庭的な雰囲気大切に、利用者様が理念に基づき過ごせるように努めている。	「きまま・わがまま・いいかげん」の法人理念を軸に事業所理念も策定している。事業所の要所に掲示し、家庭的な暮らしの中でその人らしく過ごせるケアの実現に取り組んでいる。2階ユニットではケアの拠り所となる目標を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為控えている。	今年度は地域行事も法人行事も控えざるを得ない状況で、住民が集結して行う花壇の植え替えも、其々が分担で行われている。唯一、近隣の町内会長との関わりや回覧板の情報で接点を持ち、相互関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人での無料のお茶会など地域の人々に向けて発信する場を設けていたが、コロナの為控えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度、コロナの為書面会議にて意見交換を行いサービス向上に努めている。	例年では系列の3事業所合同で開催しているが、今年度は各自で書面会議となり2ヵ月毎に行っている。事業所の活動内容や現状報告に加え、包括職員や町内会長に意見や提案等を求め議事録に記載し、推進委員、家族に報告し、コロナ禍での利用者の状況を伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や勉強会への外部講師の依頼などを行い取り組んでいたが、コロナの為控えている。	介護保険制度の変更や内容の解釈に疑問が有る場合は、管理者が直接窓口に出向き相談やアドバイスを受けている。包括職員とも運営推進会議は元より、空き情報問い合わせなど、緊密な関係を築いている。行政からの情報はメールで、書類提出は郵送で行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び玄関の施錠は行っていない。身体拘束防止委員会や定期的な勉強会、伝達研修はコロナの為、事業所内で行えること以外は控えている。マニュアルは設置している。	身体拘束防止委員会は2ヵ月毎に開催され、内部研修も指針やマニュアルを基に年2回実施され、理解を深めている。虐待チェックリスト、自己採点シートで自らの反省の機会とし、言葉遣いなどの接遇面では都度、管理者が指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会はコロナの為控えている。カンファレンス等で常に注意を払い、話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	成年後見制度を実際に利用している入居者もいる。講習など学ぶ機会もあり伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前やその都度不安や疑問を尋ね、必要であれば十分な説明を行う		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には何気ない雑談の中からくみ取り、ケアプラン更新時にも意見等尋ね反映に努める	家族との面会は、距離を保ち玄関先で行い、互いの安否を確認している。利用者からの要望は無いが、毎月、家族には担当職員からの「せせらぎ通信」や管理者からの便りや写真の同封で詳細な状況を伝え、問い合わせや要望には可能な限り対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度統括ホーム長による面談を行い反映に努めている	今年度は全事業所合同会議は中断し、今年から管理者会議のみ開催している。毎月のユニット会議や個人面談、日常業務の中で意見や提案を聞き出し、情報を共有する事で職員の主体性を重んじたケアに取り組んでいる。職員の提案で動線に配慮した手摺の設置を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に管理者が職員の話に耳を傾けられる職場環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に一度全事業所合同の勉強会を開催し、意見交換などを行う。希望や推薦があれば外部研修の機会も設けている。(コロナ渦の為実施していない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の実施や外部研修等で同業者と交流する機会を設け取り組みに努めている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、またはご家族様に見学、面談等をしていただき、入居前に話をして安心して生活できるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から入居後の状況を常に報告し、ご家族の要望にも耳を傾け、良好な関係作りに努め、信頼関係を築く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望をしっかりと傾聴し、出来る事と出来ない事の見極めを行い、時間をかけ話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も同じメニューと一緒に食事をしたり、出来る事は一緒に行いともに暮らしている者同士の関係作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を毎月のお手紙等で報告し、来設時には様子を細かくご家族にお伝えしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(現在はコロナウイルスの影響で難しいが)ご家族や知人が気軽に来設できることや、外出外泊によって関係の継続を図っている	コロナ禍で中断していた馴染みの理美容の訪問が3月に実現し、利用者は久しぶりにヘアスタイルを整え、会話を楽しみ気分転換を図っている。家族、親類とは玄関先の面会や電話で交流を継続している。室内レクの充実で、利用者のお家時間を楽しませ、職員との関わりを深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓テーブルやソファー、テレビ配置の工夫をし孤立しない様お茶やおやつの時間を皆で楽しく過ごせるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要や要望に応じていつでも対応できるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な利用者様には本人の意見意向を聞き把握するよう努めている。重度化されえいる利用者様については、ご家族との話し合い等で、出来るだけ本人本位になるように検討している	意思疎通が可能な利用者が多く、普段の声掛けに対する反応から思いを推し量り、願いや希望に沿えるように努めている。聞き取りが困難な場合は、表情や仕草から要望を汲み取り、得た情報は申し送りや連絡ノートで共有を図り、プランに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に入居前の情報提供や家族様にフェイスシートの記入や直接話を聞き把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時の申し送りやバイタル測定 of 状況を把握し健全な一日が送れる様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をカンファレンスで検討し、事故報告や申し送りなどからもケアプランにつなげ、反映している	担当職員がモニタリングで得た情報を基に、インシデントやアクシデントも考慮して職員間で協議し、利用者、家族、医療関係者からの意向や意見を反映させた、本人第一とする介護計画を作成している。個別記録には本人の言葉を多く拾い上げ書き纏め、アセスメントに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンスで情報を共有し介護支援専門員、計画作成者、管理者のもとを作成を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の様子や訴え要望に対して出来る限り柔軟に対応するよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に特に活用しているという動きはない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の結果などはお手紙や電話でご家族に伝えている。また本人様、ご家族様の希望を第一にし、希望がある場合はかかりつけ医以外にも紹介などを行っている	主治医は契約時に本人、家族の意向で決めている。1名以外は月2回の往診診療を受け、入居前からのかかりつけ医や専門医等の外来受診は家族や職員で支援している。看護師職員は週1回訪問し、職員と連携を図り、利用者の状況把握と日常の健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の看護師出勤により連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や病院と連携・治療に向け対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者様の体調・状態を考え、ご家族様との話し合いを行い、コミュニケーションを図る。必要に応じて看取りの同意書交付も行う。	重度化や終末期については、利用契約時や看取り希望時に同意書を交わし、指針を基に話し合いの場を設けている。利用者、家族の希望を第一に、医療関係者との密な連携により、方針を共有し看取り支援が行われている。	人生の最終段階に向けて、本人の想いが最も重要と考えられるので、日々の暮らしの中で意向を汲み取り、得た情報を記録し、家族とも共有を図る事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等はあるが、訓練などは行われておらず実践力を身に付けているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。	今年度はコロナ禍での自主訓練となり、地域住民の参加協力も控え、夜間想定火災避難訓練を年2回実施している。前回の目標であった、自然災害対策マニュアルの整備及び備蓄品等の再点検は終了している。	前回の課題である、地域との協力体制の構築と共に、自然災害訓練のシミュレーション及び避難訓練の実施を継続する事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の自尊心を損なわない声掛けで対応を行っている。	職員は介護経験が長く、人格やプライバシーを損ねないケアを共有し、不適切な言葉かけや対応に気付いたら互いに注意を促している。呼びかけは「さん」付けを基本にしているが、利用者の要望に応じて呼ぶこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望することが言えるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせられるよう心掛けているが、職員の都合等で業務が行われることがしばしばある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な利用者様には身だしなみに気を使えるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントやお誕生日など手作りケーキを提供している。食器の下膳や洗い物を出来る方に手伝いをお願いしている	献立は利用者の嗜好を考慮し職員持ち回りで作成している。調理専門職員を配置し、旬の食材を活かした手作り料理に拘っている。季節行事や誕生会には要望に応え、手作りケーキ、チラシ寿司、刺身を提供し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量をみながら、好みの飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし口腔ケアを行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、間隔をチェックし、声掛けの工夫をして支援に努めている。	排泄が自立している利用者が5割程おり、さり気ない声掛けや誘導で失敗が少なくなるよう支援している。二人介助、夜間のポータブルトイレ使用、ベッド上の交換など、羞恥心の配慮や安眠対策に努め、下着や衛生用品は適切であるか検討し、安心や快適さに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事提供や水分補給の支援に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いはず拒否がある場合は日時をずらす等、希望に応えられるような支援に努めている	毎日入浴可能な体制で、湯船での入浴を基本に週2回を目安に支援している。二人介助や同性介助に対応し、一番風呂、湯加減の調整など要望に応え寛ぎの時間となっている。状態により足湯にシャワー浴、拒む場合は、利用者の心情を察し、タイミングや声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースや体力に合わせて安楽に生活できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師と連携を取り、スタッフ同士でも服薬の確認や管理を徹底し状態の変化にも注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の軽作業、利用者同士の談笑やコミュニケーションを図っている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物へ行けるように努めているが、コロナの為控えてもらっている。	今年度は全ての外出行事が自粛となり、事業所としての外出は外来受診のみとなっている。居間のベランダや窓を開放し、風を取り入れ、四季折々の景色を眺め気分転換を図っている。お家時間を有効活用し、階段の上下運動や季節の飾りつけを職員と一緒に作成している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々により所持している方もいらっしゃるが、難しいケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度で対応、支援を行い、ご家族にも協力を頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の配慮や利用者様の訴えにて温度調節を行っている。	各ユニットの居間の窓は大きく、四季折々の景色が楽しめる。今年度は特にコロナ対策で、加湿器の設置、定期的な換気、除菌作業の徹底に努め清潔な空間となっている。利用者の力作である季節の飾りつけが施され、掲示された今日のメニュー表で、食事への関心や話題のきっかけを作り、和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置や座席の工夫を行い、トラブル等があった時は席替え等を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ馴染みの物を持参して頂けるように配慮し、居心地よく過ごせるよう支援に努めている。	居室には馴染みの家具やベッド、テレビ、仏壇などを持ち込み、レク作品や家族写真などを飾り、一人ひとり使い勝手が良い空間を作り上げている。好きなチームの野球や相撲を自室のテレビで気兼ねなく観戦するなど、個々の日常が垣間見える、落ち着ける部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の個々の見極め、支援を行い、安心して生活できるように支援している。		